



国立大学法人
豊橋技術科学大学

豊橋技科大RACニュース

Dec. 2016

vol. 7

豊橋技術科学大学 研究推進アドミニストレーションセンター ニュース

巻頭言

研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）の誕生と期待

豊橋技術科学大学 理事・事務局長
鈴木 章文



私は、平成25年4月に豊橋技術科学大学に着任しました。その直後の5月中旬に、文部科学省から本学に対して、『「研究大学強化促進事業」のヒアリング対象機関となったので、6月末までに「研究力強化実現構想」の提出を求める』という通知がありました。

これまで、私は、文部科学省、大学共同利用機関、日本学術振興会、内閣府総合科学技術会議事務局等において、科学研究費助成、競争的資金の制度設計、研究機関の再編、科学技術・学術政策、研究評価等の様々な研究支援事務に携わっていたことから、ヒアリング対象大学と聞いた瞬間、如何にして採択に導くか？という使命感のようなものが湧きました。

平成25年度「研究大学強化促進事業」は、1) 競争的資金の獲得状況、2) 被引用TOP10%論文のシェア、3) 国際共著論文比率、4) 民間企業との共同研究実績、5) 特許実施件数の増加実績等の研究指標に基づき、世界水準の研究活動が活発であり、かつ研究力が高い大学から、20件程度の大学セクターを選定するという文部科学省の新規重要施策でした。当初は、本学の規模から選定されることは難しいのではないかと予想していましたが、本学には研究大学に値するこれまでの蓄積と可能性があるかと確信し、採択に向けての作業が始まりました。しかし、1ヶ月足らずの間に膨大な構想調書を書き上げることができるか？という懸念がありました。

本事業は、一般の競争的研究資金とは異なり、システム改革に関する提案であることから、大学の行政手腕が問われることとなります。直ちに、学長、理事、副学長で構成する当時の執行部メンバー及び事務局において、募集要領の読み込みと構想案の検討を開始しました。そして、執行部会議（現在の戦略企画会議）での議論を踏まえて、比較的早い段階で基本コンセプトができました。

基本コンセプトとは、本学が国際的に研究力を高めるために、文部科学省が求める「リサーチアドミニスト

レーターを育成・確保するシステム」を整備すること、本学が今まで以上に優れた研究を進めるために、研究力強化策と連動した年俸制を含む人事労務制度改革を実行することです。更に、これらを基本として、『技術を科学で裏付け、新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とする』という豊橋技術科学大学の理念のもと、産学官連携としての強みを明確にして、課題を解決する工学から、新しい価値を創造する工学に進化する「異分野融合イノベーション研究」を推進する拠点形成を行うことです。

その後、基本コンセプトを具現化するために、執行部会議に2つのワーキンググループ（研究支援体制WG、人事労務WG）を設置して、具体的な作業に移りました。構想内容が改革的な提案であっても、学内会議（大学運営会議、教育研究評議会、経営協議会）における協議では前向きな意見交換に終始したことが、採択に向けた第1ステップとなったと思っています

執行部のチャレンジ性、事務局の機敏性、執行部と教職員との信頼関係と連携の強さが、開学以来の本学の強みであると認識しました。

次に、本事業の募集要領に示された「事業背景と目的」及び「ヒアリング審査の項目と観点」に記された全ての言葉の意味を理解し、更に、大学セクターに求められる研究支援体制のあり方や当時の産業競争力会議や教育再生実行会議における政府の提言、指摘事項の洗い出しを行い、本学の経験知を踏まえた上で、更なる展開に向けて如何に構想調書に書き込むか？という作業に取り掛かりました。その作業には、執行部会議及び執行部会議を支える当時の研究戦略室、エレクトロニクス先端融合研究所、テーラーメイド・バトンゾーン教育推進本部、産学連携推進本部のメンバーが、また、事務局からは研究協力課、総務課、人事労務室のメンバーが

参画し、多数の教職員の協力を得て作業を進めました。その中で、特に中心となって構想調書をまとめてくれたのが、研究協力課長の萩平弘さん（平成26年4月から総務課長に異動、本年8月に御逝去）でした。彼は、研究支援の仕組みに極めて精通しており、更に、教職員からの信頼も厚い人でした。彼が積極的に調整してくれたことが、採択に向けた第2ステップとなったと思っています。

1ヶ月足らずの間に構想調書を書き上げ、無事に文部科学省に提出した後は、有識者会議によるヒアリング当日まで、プレゼンテーション資料の作成、あらゆる質疑を想定した応答資料の作成に専念しました。その結果、本学は22機関の1つに採択され、平成25年12月に研究推進アドミネレーションセンター（RAC：Research Administration Center）が誕生して現在に至っています。今回、改めて構想調書やヒアリング説明資料を読み返してみても、現在の進捗状況と比べてみると、当初に計画した以上に、本学の研究推進アドミネレーションシステムは着実に軌道に乗っていると

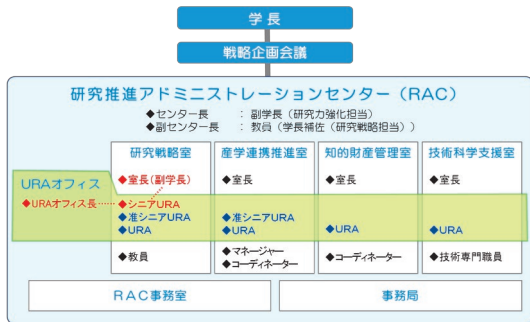
感じています。

今後は、1) 競争的資金の獲得状況、2) 被引用TOP 10%論文のシェア、3) 国際共著論文比率、4) 民間企業との共同研究実績、5) 特許実施件数の増加実績等の本学のアカデミックエビデンスを如何に伸ばしていくかということに尽きると思います。

『一流の小説家には腕利きの編集者がいる』と云われますが、本学の教員を独創かつ創造性に溢れる研究者へ導くためには、RACの精鋭たるURA（University Research Administrator：リサーチ・アドミニストレーター）やCD（科学技術コーディネーター）の腕の振るいどころだと思っています。

平成28年度から国立大学法人として第3期中期目標・計画が始まりました。それに合わせて、本学の機能強化における戦略の柱の1つとして、『新しい価値を創造し、地域社会の活性化に貢献する研究拠点』となる「技術科学イノベーション研究機構」が設置されました。本機構には、既存の研究所やリサーチセンターとともに、新たに戦略研究部門が置かれ、国内外の研究機関・企業等からの外部資金と大学資金とのマッチングファンド形式による「イノベーション協働研究プロジェクト」が整備されました。RACには本機構との連携、支援が期待されています。

平成29年度は「研究大学強化促進事業」開始5年目に当たり中間評価の時期となります。RACの益々の展開と挑戦が本学の研究力強化に繋がるものと確信しています。



協働研究推進のための新たな取り組み

▷ イノベーション協働研究プロジェクトを始動

本学の国立大学法人 第3期中期目標・中期計画の具体策の1つとして、国内外の研究機関や企業等と協働し、社会実装・社会提言に繋がる戦略的研究を推進することを目的とする「イノベーション協働研究プロジェクト」の学内募集を行い、平成28年度は16件の協働研究プロジェクトを始動しました（次頁の表を参照）。

本学は、本年4月1日付で、既存のエレクトロニクス先端融合研究所と4つのリサーチセンターの研究活動に横串を通し、戦略的に研究を推進する「技術科学イノベーション研究機構」を設置しています。「イノベーション協働研究プロジェクト」は、本機構の戦略研究部門において、国内外の研究機関・企業とオープンアプリケーション方式による効果的な融合研究を行うため、運営費交付金機能強化分と企業等からの外部資金とのマッチングファンドにより進めるプロジェクトです。

各プロジェクトは、自己資金として外部資金（共同研究費、受託研究費、寄付金）や競争的資金等を用意します。それに加えて、大学側からはプロジェクト運営資金が配分されます。このようにして、自己資金と大学資金とのマッチングファンドを実現します。

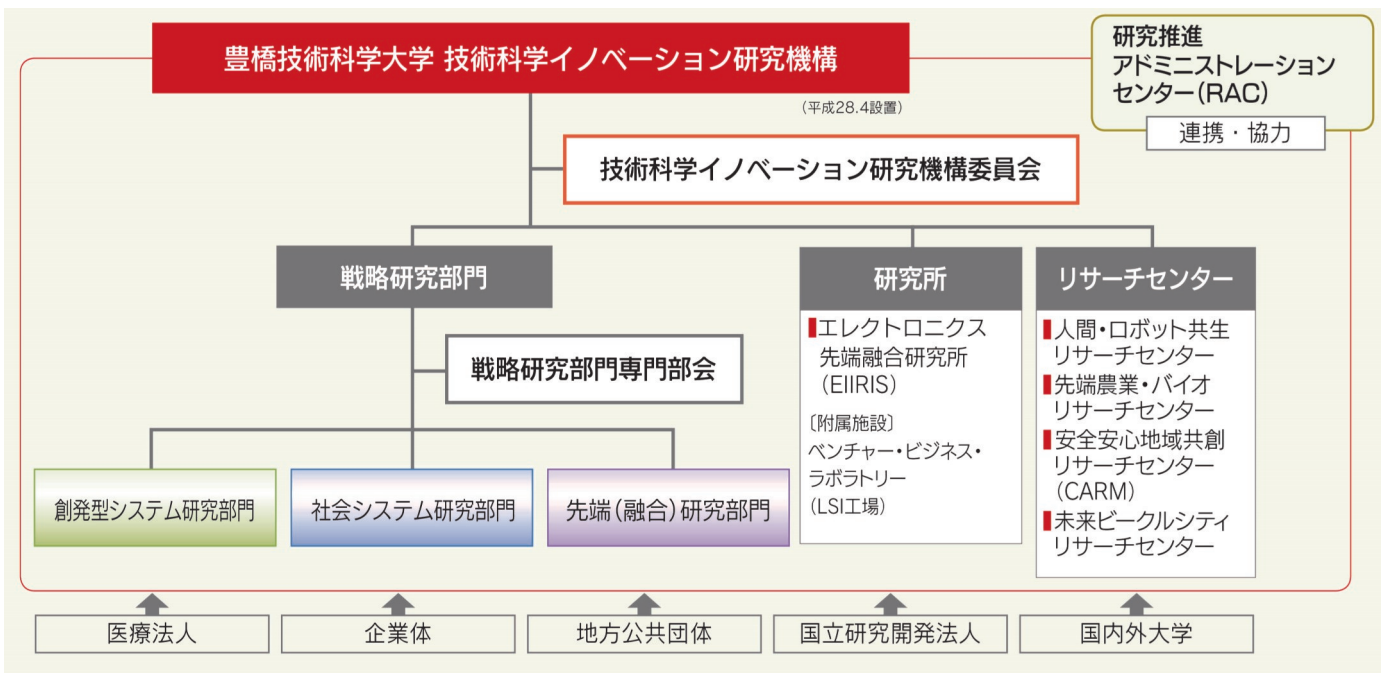


プロジェクトの研究リーダーは本学の教員で、研究員のうち1名以上は、企業または海外大学・研究機関の研究者で構成します。プロジェクト研究の実施期間は3年ですが、期間終了後に、発展的に更新することも可能です。

▷ URA・コーディネーターがプロジェクトを支援

研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）に所属するURA（リサーチ・アドミニストレーター）およびCD（科学技術コーディネーター）は、イノベーション協働研究プロジェクトのメンバーと綿密に連携しながら、下記の役割を担っていきます。

- ◇ 外部資金・競争的資金獲得支援
- ◇ 知的財産戦略の策定支援
- ◇ 知的財産の創出支援および管理
- ◇ 国内外研究機関・企業との契約業務
- ◇ 研究成果の国際広報・情報発信
- ◇ 成果報告会の運営支援
- ◇ 各種イベント・展示会の出展支援
- ◇ 研究会等の設立・運営支援
- ◇ 成果の発信支援（英語論文作成支援、英語プレゼンテーション指導）
- ◇ 安全保障輸出管理



平成28年度 イノベーション協働研究プロジェクト一覧

部門	研究テーマ	代表者
創発型システム研究部門	関係論的なロボットの社会実装研究プロジェクト Research Project for Social Implementation of Relation-oriented Robots	情報・知能工学系 岡田 美智男 教授
	豊橋技科大ーアスモ 先進モーションテクノロジー研究プロジェクト TUT-ASMO Advanced Motion Technology Laboratory Project	情報・知能工学系 三浦 純 教授
	次世代異物検査技術研究開発プロジェクト Development of Next Generation Contaminant Detection Technology	環境・生命工学系 田中 三郎 教授
	ワイヤレス給電のための創発的高周波半導体回路技術の構築 High-Frequency Semiconductor Circuit Serendipity for Wireless Power Transfer	未来ピークルシティリサーチセンター 大平 孝 教授
	センサ・MEMS技術を用いたバイオセンサの研究 Developments of novel bio-sensor using Sensor / MEMS technology	電気・電子情報工学系 高橋 一浩 講師
	OSG-TUT連携先端ツールコーティングラボラトリー Advanced tool Coating Technological laboratory, OSG-TUT collaboration (ACTO)	電気・電子情報工学系 滝川 浩史 教授
	「路面標示2.0」プロジェクト Road Marking 2.0 Project	建築・都市システム学系 松尾 幸二郎 助教
社会システム研究部門	多言語情報発信支援の社会実装に関する研究 Research on Societal Implementation of Supporting Multilingual Information Outbound	情報メディア基盤センター 井佐原 均 教授
	リサイクルセンターで利用可能な屋外清掃ロボットの開発 Development of an outdoor cleaning robot usable in a recycle center	機械工学系 内山 直樹 教授
	東海地域を巨大地震災害から守る災害検知・防災情報共有システムの開発と実装 Development and implementation of a disaster detection and disaster prevention information sharing system in order to support the Tokai region in the case of a massive earthquake	安全安心地域共創リサーチセンター 齊藤 大樹 教授
	バイオマス生産および利活用研究 Research for Production and Utilization of Biomass	国際交流センター 大門 裕之 教授
	東三河地域の農業発展のための新たな農業振興方策 New agriculture promotion plans for agriculture development in East Mikawa region	先端農業・バイオリサーチセンター 井上 隆信 教授
	流域からの水質汚染物質の流出機構解明 Investigation of mechanism of water pollution material runoff	建築・都市システム学系 横田 久里子 准教授
先端（融合）研究部門	革新的先端センサプロセス研究とイオンバイオロジーの創成 Innovative Advanced Sensor Processing and Ion-Biology	電気・電子情報工学系 澤田 和明 教授
	認知・共感等心的脳内メカニズムの実験認知科学研究 Research on Experimental Cognitive Science of Psychological Brain Mechanisms	情報・知能工学系 中内 茂樹 教授
	相分離型マルチフェロイック薄膜新材料の開発とデバイス化 Multiferroic Materials Laboratory for Advanced Applications	電気・電子情報工学系 松田 厚範 教授

英語論文校正・英語プレゼン指導サービス

研究戦略室

▶ これまでに約350件のサービスを実施

RACでは、昨年6月にネイティブによる「英語論文校正・英語プレゼンテーション指導サービス」を開始しました。この活動は、現在では教員や学生の方々に広く認知されており、これまでに、延べ約350件の論文校正やプレゼン指導が行われました。依頼者の中にはリピーターも多く、このサービスの質が高いことを証明しています。

本サービスは、校正者とディスカッションしながら自分の原稿を修正できることが大きな特徴です。毎週



英語プレゼンテーション指導の様子

金曜日の9時から15時まで、C棟1階101に校正者が在席しています。原則として、事前にメールまたは申し込みフォームで依頼していただく必要がありますが（RACニュース vol.4, 3頁参照）、簡単な問合せであれば当日でも結構ですので、お気軽にお訪ねください。

▶ 英語論文校正サービス利用者の声

リピーターの中でも、特に電気・電子情報工学系の大平孝教授の研究グループは、このサービスを何度も利用されています。

「本学から世界に向けて情報発信するためには、ネイティブによる洗練された英語表現が不可欠です。最初に添削を利用した時、英語表現をととても丁寧に考えて頂きました。IEEE論文誌に投稿した結果、その論文が2ヶ月連続でダウンロードチャート世界第1位に輝きました[1]。それ以来、継続的にRACの添削サービスを利用するようになりました」（大平教授）。

[1] Takashi Ohira, "What in the world is Q," IEEE Microwave Magazine, vol.17, no.6, pp.42-49, June 2016.

EurekAlert! を活用した情報発信について

研究戦略室

▶ プレスリリースの実績

国際情報発信プラットフォームEurekAlert!は、研究成果を世界中の記者に素早く届けることができるシステムです。本学からは、これまでに累計34件の配信を行いました。そのうち、本年7月から10月までの間に配信した記事は下表のとおりです。

▶ 日本語での情報発信も可能

EurekAlert!には、日本語プレスリリースに特化したウェブサイト(EurekAlert! Japan Portal)があり、

日本語での配信も可能です。現在、日本の大学や研究機関から本学を含む17機関が参画し、277名の日本人記者が登録しています。これは、日本最大の科学記者クラブと言っても過言ではありません。

RACは広報部会と共同で、EurekAlert! Japan Portalも利用して、本学の研究成果を広めるための広報活動を行っています。論文が採択されましたら、RAC事務室(service@rac.tut.ac.jp)までご連絡ください。また、プレスリリースの反響等については、RACのHPで紹介していますので、ぜひご覧ください。

配信日	所属	氏名	EurekAlert! プレスリリースタイトル	アクセス数 (2016/11/30 現在)
2016/10/25	電気・電子情報工学系	澤畑 博人	Can the brain feel it? The world's smallest extracellular needle-electrodes	2,705
2016/10/25	機械工学系	戸高 義一	Development of a new thermoelectric material for a sustainable society	1,614
2016/10/14	環境・生命工学系	伊津野 真一	Artificial enzyme for asymmetric synthesis using a synthetic chiral polymer	7,201
2016/07/27	電気・電子情報工学系	後藤 太一	World first demo of labyrinth magnetic-domain-optical Q-switched laser	5,570
2016/07/20	電気・電子情報工学系	稲田 亮史	Garnet-type fast ionic conductor for all-solid-state lithium battery	4,284
2016/07/18	情報・知能工学系	三浦 純	Can robots recognize faces even under backlighting?	2,028

産学連携・知財活動のトピックス

産学連携推進室／知的財産管理室

▷ 「知の拠点あいち」第Ⅱ期重点研究プロジェクト

「知の拠点あいち」重点研究プロジェクトは、愛知県における既存産業の高度化や新産業の創出を目的として、第Ⅰ期(平成23～27年度)に引き続き、第Ⅱ期(平成28～30年度)が8月より始動しました。10月12日には、愛知県の大村知事、(公財)科学技術交流財団の濱口理事長ほかプロジェクト参加者らが出席して、キックオフセミナーが開催されました。

第Ⅱ期重点研究プロジェクトでは、参加企業による製品化を前提とした強い出口指向が求められています。そのために、マッチングファンド形式がとられ、企業の研究投資額と同額が愛知県より助成されます。研究開発課題としては、①「次世代ロボット社会形成技術開発プロジェクト」、②「近未来水素エネルギー社会形成技術開発プロジェクト」、③「モノづくりを支える先進材料・加工技術開発プロジェクト」の3課題で26テーマが採択され、総額9億円/年が予算化されています。本学からは、下表の5テーマが採択され8名の教員が参画して研究開発を行います。

プロジェクト①のロボット関連テーマ3件では、本学の人間・ロボット共生リサーチセンターの研究者が中心に、社会ニーズの高い介護支援・リハビリ用途のロボット、および省力化を目的とした農作業支援ロボットの研究開発に取り組みます。さらに、愛知県の交通事故低減対策として自動車安全技術の開発も課題に

なっており、愛知県立大学小栗教授と本学の松尾助教らのグループは、道路インフラを対象とした安心安全管理技術の開発を行います。また、プロジェクト②では、メタンから水素を直接製造する技術の実現に向けて研究開発にチャレンジしていきます。

RACでは、第Ⅱ期重点研究プロジェクトの構想段階の昨年から6か月間にわたり、行政と連携して活動してきました。情報収集・分析から始まり、教員と連携して、プロジェクトの企画立案や、参画企業との折衝等を進め、応募に際して企画書の作成支援やヒアリング審査支援も行いました。

事業採択後も、プロジェクトを円滑に立ち上げるため、事業化リーダー企業や(公財)科学技術交流財団、あいち産業科学技術総合センター等の愛知県の機関と共に、開発実施計画の策定支援を行いました。一例として、『介護医療コンシェルジュロボットの研究開発プロジェクト』では、事業化リーダーほか企業4社、ユーザとして天竜厚生会、福祉村病院、研究機関として国立長寿医療研究センターや福島県立医科大学、全10機関が参画しており、RACでは、関係者が課題を共有できるよう調整し、実施計画の策定を支援しました。

「知の拠点あいち」第Ⅱ期重点プロジェクトを成功に導くため、RACは、今後も引き続き、組織間の連携を支援していきます。



交通事故低減のための安心安全管理技術の開発
(蛍光・蓄光式路面標識)



介護医療コンシェルジュロボットの研究開発
(介護施設での課題抽出試験の様子)

「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト		本学の参画教員 (★ 研究リーダー)	事業化リーダー
区分	採択テーマ		
①	介護医療コンシェルジュロボットの研究開発	三枝 亮 特任准教授 ★ 寺嶋 一彦 教授	新東工業(株)
①	施設園芸作物の収穫作業支援ロボットの研究開発	三浦 純 教授 ★ 三好 孝典 准教授	シンフォニアテクノロジー(株)
①	愛知次世代ロボットの産業化・市場創出を推進する要素技術開発 (本学担当：多人数会話型インタラクション技術)	岡田 美智男 教授	富士機械製造(株)
①	交通事故低減のための安心安全管理技術の開発 (本学担当：ロードルミナリエ(蛍光・蓄光表示))	松尾 幸二郎 助教	(株)キクテック
②	メタン直接分解水素製造システムの開発	中村 祐二 准教授 ★ 須田 善行 准教授	(株)伊原工業

研究機器の有効活用に向けて

技術科学支援室

▷ 機器の紹介 No.5：核磁気共鳴装置

(ブルカー・バイオスピン AVANCE III 400)

核磁気共鳴装置 (NMR) は、磁場の中に入れた原子核に電磁波を照射した際に吸収される電磁波の周波数を調べることで、物質の構造解析を行う装置です。液体固体を問わず、非破壊で試料の測定ができます。また、 ^1H や ^{13}C 以外の核種の測定も可能です。

環境・生命工学系の辻秀人教授・荒川優樹助教の研究室では、新しい有機高分子や液晶分子を合成し、それらの結晶化および液晶相転移挙動に関する研究を行っています。合成した化合物の溶液中における ^1H および ^{13}C NMR測定によって、水素および炭素の位置や存在比を評価し、分子構造を決定します (右図)。NMRの測定は、合成した化合物の分子構造の決定だけでなく、純度を保証する一つの手段にもつながります。

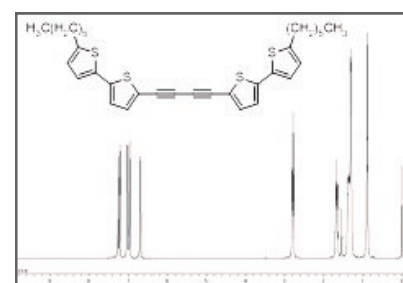
本装置は、事前に取り扱講習会を受講

いただくなど一定の使用資格を満たしていれば、どなたでもご利用いただけます。詳細については、RACホームページの「研究機器一覧」をご確認いただくか、教育研究基盤センターの分析支援部門までお問合せください (tech@crfc.tut.ac.jp)。

技術科学支援室のページ：

<http://rac.tut.ac.jp/org03/index.html>

(「研究機器一覧」は学内専用)



左：核磁気共鳴装置 (ブルカー・バイオスピン AVANCE III 400)

右：液晶分子の ^1H NMRスペクトル

(データ提供：荒川優樹助教、*Liq. Cryst.*, 2014, 41(5), 642)

豊橋技術科学大学シンポジウムを開催します

本学は、研究大学強化促進事業を推進しつつ、今年度、新たに「技術科学イノベーション研究機構」を設置し、東三河を中心とする地域企業や研究開発機関等との連携研究を強力に進めています。

今回開催するシンポジウムは、「東三河から世界へ」をテーマに、独創的な研究成果や、本年度から新しく開始した「イノベーション協働研究プロジェクト」(本紙3頁～4頁参照)の取組みについて、パネルディスカッションも加えて報告する予定です。また、新しい取組みや代表的な研究成果について、約40件のポスター・デモ展示も行います。皆様のご参加をお待ちしています。

プログラムの詳細および申し込み方法は、下記URLをご参照ください。

シンポジウム案内・申込ページ：

<http://www.tut.ac.jp/event/170214-9778.html>



文部科学省研究大学強化促進事業

豊橋技術科学大学シンポジウム「東三河から世界へ」

～産学官連携による新しい価値の創造～

主催：国立大学法人豊橋技術科学大学

後援：豊橋市、豊橋商工会議所、(株)サイエンス・クリエイティブ

日時：平成29年2月14日(火) 12時30分～17時30分

場所：ホテルアソシア豊橋(豊橋駅直結)

基調講演：

東三河から世界へ～最新コーティング技術で世界制覇～
(オーエスジー株式会社 代表取締役社長 石川 則男氏)

取組紹介：

技術科学イノベーション研究機構の設立とその役割

(豊橋技術科学大学 副学長/技術科学イノベーション研究機構 機構長 寺嶋 一彦)

ポスター・デモ展示：

新しい取組みおよび独創的な研究成果の展示発表(約40件)

研究紹介：

◆豊橋技科大アスモ 先進モーションテクノロジー研究プロジェクト

(豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 教授 三浦 純)

◆<弱いロボット>の社会実装研究プロジェクト

(豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 教授 岡田 美智男)

◆東三河をつなぐ防災減災連携

(豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 齊藤 大樹)

◆新セラミックス膜構造創成技術～エネルギー関連機器の効率改善に向けて～

(豊橋技術科学大学 機械工学系 教授 福本 昌宏)

パネルディスカッション：

東三河から世界へ～産学官連携による新しい価値の創造～

◆パネリスト

文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長 坂本 修一氏

オーエスジー株式会社 代表取締役社長 石川 則男氏

豊橋市長 佐原 光一氏

豊橋商工会議所 会頭 神野 吾郎氏

豊橋技術科学大学長 大西 隆

◆モデレーター

豊橋技術科学大学 副学長/技術科学イノベーション研究機構 副機構長 原 邦彦



著作権Q&A 連載第6回

著作権法では、利用者の利便性を考慮して、著作権を制限し、著作権者の許諾を得ることなく使用できる「制限規定」を定めています。

教育における著作物の使用もその制限規定の一つです（著作権法第35条）。大学の授業を例にあげれば、授業の中で必要と認められる限度で、著作権者の許諾を得ずに、他者の著作物を使用できます。しかし、それには条件を守る必要があります。

質 問

教育の一環として、研究室で論文講読ゼミを行っています。その際に、他者の論文をコピーして、十数名のゼミ生に配布しています。さらに欠席者のために、ゼミで取り上げた論文を学内サーバーに保管し、ゼミ生に限りダウンロードできるようにしたいと考えています。何か問題があるでしょうか。

回 答

研究室の論文講読ゼミは教育の一環に当たりますので、他者の論文をコピーして学生に配布することに関して、著作権者の許諾は不要だと考えられます。ただし、配布する著作物は公表されたものに限られます。未公表の著作物（“in press”中の論文等）を複製し配布

する場合には、著作権者の許諾が必要です。

著作権者は、インターネットなどを通じた著作物の配信に係る権利（自動公衆送信のための送信可能化権）を持っています。たとえ教育における著作物の使用であっても、送信可能化権は制限されません。したがって、ゼミ生に限ったダウンロードだとしても、著作権者の許諾が必要です。

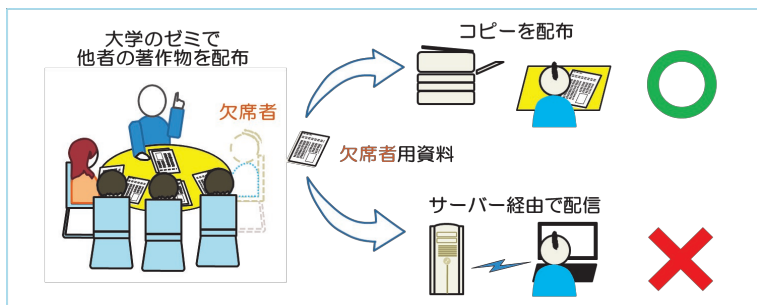
欠席した学生には、ゼミで配布したコピーを渡して下さい。

ポ イ ン ト

- ◇ 学内サーバーに著作物を蓄積することは、「授業の過程」における使用には該当しないと考えられています。
- ◇ 教育における著作権については、「学校その他の教育機関における著作物の複製に関する著作権法第35条ガイドライン」（著作権法第35条ガイドライン協議会）を参考にして下さい。

学校その他の教育機関における著作物の複製に関する著作権法第35条ガイドライン（一般社団法人日本書籍出版協会へのリンク）：

<http://jbpa.or.jp/guideline/index.html>



お問合せ先：
 科学技術コーディネーター
高本 雄治（内線：3004）
 一級知的財産管理技能士
 ビジネス著作権検定上級
 AIPÉ認定 知的財産アナリスト（コンテンツ）



発行元 : 国立大学法人 豊橋技術科学大学
 研究推進アドミニストレーションセンター (RAC)
 発行日 : 平成28年(2016年)12月16日 (第7号)
 お問合せ先 : TEL : 0532-44-1561 (内線 5342)
 Mail : office@rac.tut.ac.jp
 編集委員長 : 藤原 久 (特定教授/准シニアURA)
 編集委員 : 勝川 裕幸 (准シニアURA) 土谷 徹 (特定准教授/URA)
 白川 正知 (特定准教授/URA) 田中 恵 (URA)
 大久保 陽子 (URA) 井藤 優子 (URA)
 吉倉 絵里香 (特命事務職員)
 Web版URL : <http://rac.tut.ac.jp/intro/news.html>



RACニュース
PDF版

RACニュースは、カラーユニバーサルデザインに対応しています。
 内容等を複写・転載される場合は、必ず発行元までご連絡ください。